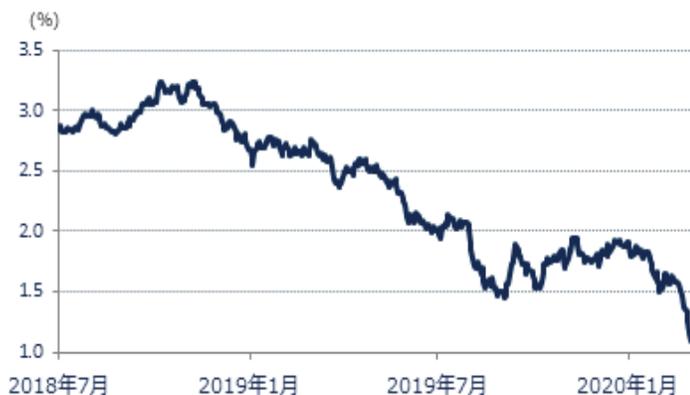


長期金利の低下を受けて

先進国ソブリン債券チーム

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、内外市場がリスクオフに大きく振れています。世界の主要な株式市場は今年の高値水準から10%を超える急落となり、債券市場では、中央銀行による利下げを催促する格好で長短金利の急低下が進行しました。

米国10年国債利回り推移
(2018年7月1日～2020年3月2日)



弊社では、昨年までの米連邦準備制度理事会（FRB）の予防的な利下げが本格的な利下げや量的緩和の再開へと変貌するという見通しから、米国10年国債利回りの予想レンジを1.3%～1.8%と見て、ポートフォリオのデュレーションを長めに維持し、金利低下局面での収益獲得を狙うポジションを維持してまいりました。先週の金利急低下を受けて、リスクテイク幅の調整を行い、金利低下にかけたポジションの一部利益確定を図りました。

世界的な感染地域拡大により、サプライチェーンの分断に伴う生産活動の停滞がグローバルに蔓延し、設備投資の抑制や消費マインドの低迷などから景気後退へ突入する懸念が高まってきており、債券市場ではFRBや主要中央銀行による年内の利下げを織り込んでいます。これまでの生産抑制の動きが実際の経済指標に表れる夏場までは景気後退懸念を完全に払拭する材料に乏しく、米国10年国債利回りは1%台前半での神経質な展開が続くものと予想します。

一方、主要中央銀行が協調して金融緩和などの市場安定化策を打ち出し、同ウイルスが発生した中国において新規感染者の増加ペースが鈍化し、生産活動の再開などの動きが早まれば、市場を覆う悲観ムードが後退し、リスク性資産の価格上昇や金利の反転上昇の契機になる可能性が高いものと予想します。

以上から、同ウイルスの感染拡大の状況や、これに伴う実体経済への影響、中央銀行の政策対応等の判断材料を基に金利低下余地を見極めつつ、一段の金利低下局面では利益確定によるポートフォリオの段階的なリスク削減を行い、金利急低下の反転上昇の際の対応余力を一定程度確保し、ポートフォリオの運営を行う方針です。

ベアリングス・ジャパン株式会社

〒104-0031
東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン7階
TEL : 03-4565-1000
FAX : 03-4565-1047
<https://www.barings.com/jp/institutional>

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第396号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、ベアリングス・ジャパン株式会社（以下、「当社」）が金融市場動向に関する情報提供を目的に作成した資料で、法令に基づく開示書類あるいは勧誘に関する資料ではありません。当資料は、当社が信頼できる情報源から得た情報等に基づき作成していますが、内容の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に掲載した運用状況に関するグラフ、数値その他の情報は過去の一時点のものであり、将来の運用成果等を予測あるいは保証するものではありません。なお、事前の承諾なく掲載した見解、予想、資料等を複製、転用等することはお断りします。

Date Complied（東京）：2020年3月3日
Ref No. M20201Q37